

富士山憲章 NewsLetter

2022

3

No.137

第19回 富士さんへ謹賀新年

～富士山あて年賀状～ 入賞・入選作品決定！

－美しい富士山を守り、未来へ引き継いで行くために－

シリーズ 富士北麓の動物

－足元に春の気配－

本編目次

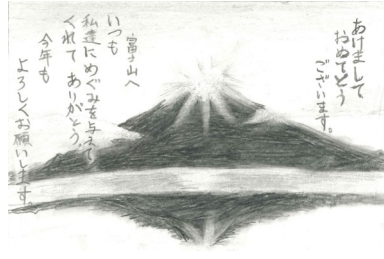
富士さんへ謹賀新年	1
富士山憲章News.....	3
富士山レンジャー活動報告...	4
ゴミについて考えよう.....	5
富士北麓の動物	6
富士山世界遺産センター だより18号.....	7
おしらせ	9

(写真提供 山梨県富士山レンジャー)

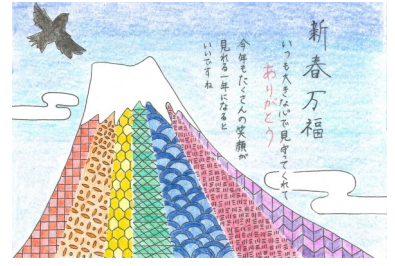
優秀賞



新田 溪斗(山梨県)



渡辺 菜々子(山梨県)



宮川 結衣(山梨県)



金岩 朋佳(愛知県)

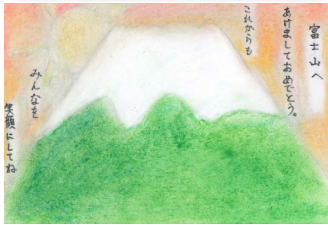


やまもとりんか(山梨県)



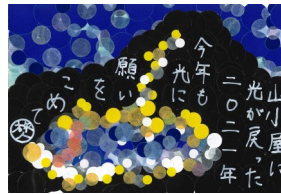
望月 尚(静岡県)

審査員長賞

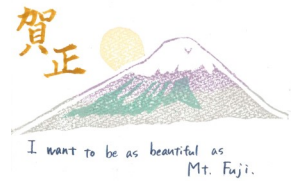


瀧口 百々那(山梨県)

審査員特別賞



梶原 旅人(山梨県)



榎田 華羽(新潟県)

企画力賞



竹内 碧彩(東京都)



小玉 敬子(埼玉県)



打浪 紘一(大阪府)

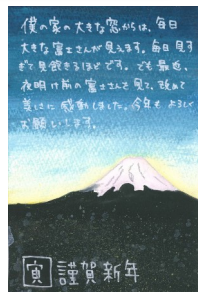


鶴田 美祈子(山梨県)

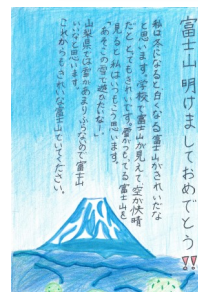
表現力賞



すけ川 あん(山梨県)



太田 大翔(山梨県)



中野 純蓮(山梨県)



反田 慶二郎(山梨県)

メッセージ賞

富士山憲章ニユース

令和3年度

第2回富士山エコトレッキング

2年ぶりとなる夏の開山から数ヶ月、「世界遺産 富士山」を身近に感じ、自然や歴史、文化の解説を聞きながらのトレッキングにあわせ、「富士山にゴミを持ち込まない・捨てない・気づいたゴミは拾う」の主旨のもと清掃活動を行う、第2回富士山エコトレッキングを令和3年10月30日(土)に開催しました。

トレッキングコースに残雪が確認されるなど、開催が危ぶまれましたが、当日は気持ちのいい晴天となりました。

日差しの温かさを感じられる秋晴れの中、ソーシャルディスタンスを保ち、少数のグループに分かれ、奥庭へ富士山五合目駐車場までの道のりを進みました。トレッキングを終えた参加者みなさんの達成感に満ちた笑顔が印象的でした。



自然解説員の話聞く様子

た。麓へ移動するバスの車内では富士山レンジャーによる環境学習会も行われました。

富士山をあとにするところに、急激に天候が崩れ始めましたが、何とか難をのがれ、富士山世界遺産センター周辺において清掃活動を行いました。歩道から側道などのゴミ拾いの中で家電の不法投棄などもあり、ゴミの計量にも参加した小学生の男子児童も驚いていました。結果は、可燃ゴミ15・4kg、不燃ゴミ10・8kgを回収しました。



回収したゴミを計量

富士山のみならず、自然は一度壊れてしまうと、簡単には再生できません。子供たちの、さらにその先の未来のために、美しい富士山と自然を守るためのアクションを起こしていきましょう。

富士山麓古タイヤ等

不法投棄防止集中キャンペーン

令和3年度富士山麓古タイヤ等不法投棄防止集中キャンペーンを【道の駅富士吉田】にて、令和3年11月27日(土)に実施しました。

当日は、山梨県自動車整備振興会および富士山麓環境美化推進ネットワーク構成団体からの49名の協力のもと、不法投棄の防止を呼びかけながら、啓発物品およそ500個を配布しました。また、周辺の清掃活動も行い、可燃ゴミ6.9kg、不燃ゴミ14.2kgのゴミを回収しました。



呼びかけの様子

家庭ゴミや、アウトドア用品等の不法投棄が多数みられました。地元の方々はもとより、遠方から訪れる観光客の方々にも幅広く不法投棄の防止を呼びかけることで、多くの人が環境保全に関心を持つきっかけにしたいと考えています。

富士山クリーンアップ事業

令和3年12月11日(土)、今年度を締めくくる大規模な清掃活動となる、認定特定非営利活動法人「富士山クラブ」主催の富士山クリーンアップ事業(鳴沢村焼問地区清掃活動)に参加しました。

この焼問地区には数十年前から大量に捨てられた建築廃材等が地中深くから埋められ、小高い丘のようになっていきます。シャベルやスコップなどを使い、地中からゴミを掘り出し、分別をするという地道な作業をひたすら繰り返す状況。それでもまだまだ埋められたゴミが残っています。本来の姿を取り戻す日が、一日も早くおとずれよう願わずにはいられません。

SDGs

持続可能な開発目標

世界中で取り組むこの開発目標の中には、環境問題への目標も含まれています。人々の活動が自然環境に悪影響を与えず、環境を守りつつその活動を続けられるよう、今後も関係機関との連携を図り、富士山や周辺地域の環境保全活動を積極的に行って参ります。

富士山ボランティアセンターでは、清掃活動用のゴミ袋や軍手を無料で配布しております。ご興味がある方、富士山や山麓地域で清掃活動を検討されている方は、ぜひお問い合わせください。

(<https://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/>)



2021年10月～2022年2月

富士山レンジャー活動報告

富士山レンジャー写真展

レンジャーの「ライフワーク」の一つでもある「写真展」を、今回初めての試みとして、学校構内で開催しました。アンケート用紙には生徒の皆さんからたくさん感想や意見が寄せられました。予想以上の反響にレンジャー一同感激！今後も様々な場所で写真展を行ってまいります。ぜひご覧ください。



＜富士山レンジャー写真展@富士吉田市の中学校＞

富士山レンジャー 環境学習プログラム

レンジャーが学校を訪問し、富士山の自然や環境保全に関する学習会を実施しました(計3回)。「SDGs」に着目し、

「富士山の自然を守る為にできること」を考えて頂ける内容を織り込んだ内容で実施しました。学習会を通じ、富士山に身近に感じて頂くとともに、環境保全の知識を深めて頂くことができたのではないかと思います。参加者の皆さんには、真剣な表情で聴講頂きました。ニーズに合わせたプログラムを行っておりますので、研修等にぜひご利用ください。



＜出張講座(10月19日)to京都府の中学校＞

東海自然歩道定期点検

東海自然歩道の維持管理を目的として、定期的に、同歩道がまたがる大平山及び三湖台を定期的に点検しています。大平山は環境省と合同で点検し、案内標識板や歩道の確認を実施しました。多くの方が利用する東海自然歩道、大切に未来に残していきたいものです。



＜定期点検(11月10日)@大平山＞

エコツアーガイドライン推進協議会

エコツアーで青木ヶ原樹海等に立ち入る団体が集まり、遵守ルールやマナーを協議しました。富士山北麓の原生的な自然環境を保全しつつ、持続的な利用を図ることが目的です。レンジャーからは日頃の巡回について報告し、情報の共有化を図りました。



＜質疑応答の様子(12月16日)
@富士山世界遺産センター＞

冬山登山安全啓発

毎冬、吉田口登山道「馬返し」にて、登山者へ声かけを実施しています。装備品の確認、登山道の情報提供等により、安全登山を促します。厳冬の富士山は登山経験が豊富な登山客でも困難を極めます。



＜早朝の吉田口登山道「馬返し」駐車場にて＞

前日の夜から来ている登山者も・・・
「装備は万全ですか？」
「登山届は出しましたか？」
「決して無理はしないでください！」

ご自身はもとより、
ご家族のためにも、
是非、安全登山を！

エコツアーガイドライン

<https://www.pref.yamanashi.jp/fujisan-whc/ecotourguideline.html>



みなさんはどう感じますか？

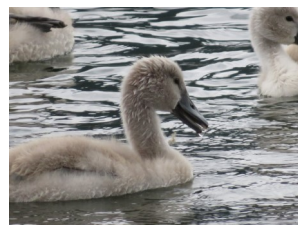


右上の写真は昨年のレンジャー写真展でも紹介されたニホンリスです。とても愛らしいですね。ところが右下の写真、ポイ捨てゴミが散乱してとても汚いですが、実は全く同じ場所のその後の姿です。

次の写真。上の写真は精進湖の静かな湖畔。でもよく見ると岸には、釣りのエサ袋などが散乱。辺りを探すと溶岩に釣り糸が幾つも絡まっています。中には釣り針も。これでは水鳥など動物の足が絡まって死んでしまいます。



実際、河口湖ではこんな事がありました。昨年コブハクチョウが9羽の雛を産み、成長を見守っていましたが、うち2羽のくちばしに釣り針が刺さっているのを確認。残念ながらその2羽は

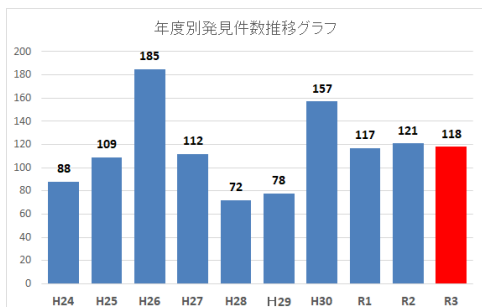


その後、元気な姿が確認できなくなりました。

中には「コブハクチョウは外来生物。むしろ駆除になるじゃないか」という人がいるかも知れません。確かにコブ

ハクチョウは元々は河口湖にいない外来種で、増え過ぎれば生態系に影響があるかも知れません。でも、だからといって、人間の捨てたゴミで命を落として良いという理由にはなりません。

富士北麓の不法投棄の現状

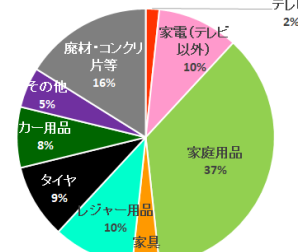


上のグラフは富士山レンジャーが過去10年間に報告した不法投棄の件数です。(今年度は1月末迄の累計)

これを見ると、コロナ禍に関連なく、年百件以上の不法投棄が発生していることが伺えます。

内訳を見ると、昔は産業廃棄物が多くありましたが、今は企業への規制強化により産業廃棄物が減り、代わりに家庭用品や家電、レジャー用品など家庭から出るゴミが大半を占めています。

令和3年度 不法投棄内訳グラフ



がなくて、よほど悪質な事案以外は入っていません。

コロナ禍で多人数での清掃ボランティアがなかなか実施しづらい状況もあつてか、国道や県道沿いの森や林に酷いポイ捨てゴミを見つけた事が多く、とても悲しい気持ちになります。



ポイ捨てゴミも内訳は色々あり、吸殻などの他、介護用おむつ等の家庭ゴミもあれば、長距離ドライブがトイレを我慢したのか、おしっこを詰めたペットボトル、キャンプブームもあつてか、ビールの空缶や貝殻などバーベキュー関係、時にはまだ使いかけのガスのカートリッジを見つけたこともあります。

サステナブルなレジャーを!

人間は勝手です。自然を楽しみたいとドライブに出掛けては車内の吸殻を道端に捨て、釣りを楽しんでも釣り糸やエサの袋はそのまま、キャンプ場でバーベキューを楽しんでも、キャンプ場ではゴミが捨てられないからと帰りのひとけのない林でキャンプゴミを放り投げる。さぞ、車内はきれいになった事でしょう、家で処分しなければならぬゴミも無くなり、さぞスッキリしたことでしょう。でも、森や湖に残されたゴミを思い出して下さい。あなたが捨てたゴミで森や湖、そして川を通じて海までも汚されるのです。自然を楽しみ、親しみ、豊かな恵みに感謝をするなら、まず、自分の出したゴミは責任をもって自宅まで持ち帰ることが最低限のルールです

また、生活ゴミはなおさらです。この地に住み、この地を愛するならば身勝手な都合や言い訳で野山にゴミを捨てないことです。

持続可能な社会、誰もができるその第一歩はゴミを野山に捨てず、自分の住む地域のルールに従って「正しく捨てる」ことです。美しい自然が大切に守られ、後世に末永く継承されれば、きっと自然も素晴らしい景観や動植物の愛らしい姿で、私達に微笑み返してくれるでしょう。

富士北麓の動物 足元に春の気配 モグラ

モグラ塚

関東平野部の桜の話題が落ち着くと、富士北麓にも桜の季節がやってきます。ツバメの飛来や道端のスミレにも春の訪れを感じる頃、まだ緑のうすい公園の芝生にヘルメット大の土の塊を見かけることがあります。また、ある日突然、庭に土の塊が置かれているのを見たことがありますか。これは「モグラ塚」と言います。その下にモグラの巣があると勘違いされることもありますが、そこを掘ってもそれらしきものは出てきません。モグラ塚は、モグラがトンネルを掘った土を地上に押し出したものです。富士北麓は、冬季に地表面が固く凍結します。春、気温の上昇とともに土壌



がゆるむと、モグラは、トンネルを修理、拡大します。真新しいモグラ塚を見かけると、春の訪れを感じます。

日本のモグラ

富士北麓には、コウベモグラ、アズマモグラ、ミズラモグラ、ヒミズ、ヒメヒミズの五種が生息しています。モグラのイメージとしてヘルメットにサンダラス、ツルハシやスコップを持っているイラスト

をよく見かけます。いかにもトンネル工事のイメージですが、実際にもまさしく地中で生きることには特化した哺乳類です。ただし、一年中トンネルを掘り続けているわけではなく、また、餌となるミミズを探知して追っかけながらトンネルを掘り進めているわけではありませぬ。モグラは、そのなわばりにトンネル網を作り、普段はそこをパトロールしつつ、トンネル内に出てくるミミズや昆虫を捕らえて食べています。

畑の害獣？

畑の害獣として嫌われることもあるモグラですが、モグラの仲間には、ほぼ完全な肉(昆虫)食です。植物性のもはほとんど食べません。では、畑の作物を荒らすのは誰なのか？それは、ネズミ等がほとんどです。例えばハタネズミは、その名の通り畑や牧草地などの柔らかかな土



左から、ヒメヒミズ、ヒミズ、ミズラモグラ、アズマモグラ、コウベモグラ

壤を好み、トンネルを掘ることも得意です。ちゃっかりモグラのトンネルを使うこともあります。

モグラのトンネルを掘る力は強大なため、花壇の草花を倒したり、きれいに整えた芝生上のモグラ塚は、見た目を悪くしているかもしれません。1頭のモグラが1年間に動かす土の量は約1トンにもなるのです。しかしながら、大量の土を掘ることは恩恵ももたらします。土の中のミネラルが攪拌(かくはん)され、また、空気の通り道を作ることにより、良い土壌が作られるのです。モグラが棲んでいることは、ミミズや昆虫もたくさんいる良好な環境の証拠であると言えます。

モグラの目

モグラにも目はありますが、光の明暗を感じる程度で物を識別することはできません。光のないトンネル暮らしのモグラには必要ないのです。ほとんど見えていないので、明るいところでも平気です。モグラが太陽の光に弱いと言うのは、迷信で、人がモグラを目にする機会が、たまたま地上で死んでいたり、捕まえたモグラが逃げ出すと同時に急いで土に潜ろうとするところから勘違いされたようです。視覚に代わって重要なのは、音(聴覚)、におい(嗅覚)、そしてもっとも重要なのが振動(触覚)です。トンネルの壁から伝わる振動を全身で感知して世の中を見えています。そういうわけで、モグラのトンネルは、自分の体が密着する大きさに作られています。したがって、モグラは広い空間が苦手

です。狭いトンネルでは、体に伝わる振動を感触により周囲の状況を知ることができず、何も体に触れていないと周囲の状況がわからず、不安、パニックになってしまいます。もしモグラを捕まえたなら、バケツにタオルと一緒に入れておくだけでも、しばらくすると落ち着きます。あまり知られていませんが、泳ぐこともできます。しかし、穴掘りに特化した体なのでジャンプや木登りはできません。



地下世界の王者

タヌキやキツネ、アナグマは、巣穴を掘ります。ニホンリスは、地面に木の実を埋めて蓄えます。このように土を掘る動物は他にもいますが、モグラは、たまたま地上に出ることはあっても、餌探し、食事、休息、子育てなど、その生活のほとんどを地下で過ごします。モグラほどほぼ完全な地中生活者はいません。肉食獣のモグラは、地下世界の百獣の王と言っても過言ではありません。

富士山世界遺産センターだより18号

■山梨県立

富士山世界遺産センター

南館展示紹介

富士山世界遺産センターは、南館の展示内容を見直し、令和4年4月にリニューアルオープン予定です。ここでは一足先にその概要をご紹介します。

● 展示解説の見直し

南館の展示内容は「信仰の対象と芸術の源泉」についてです。シンボルオブジエの「富嶽360」をはじめ多くの展示物で紹介しています。しかし、一般の方や外国の方には「理解が難しい」とのご意見もありました。このため、五一ヶ所の展示パネルを一層丁寧な内容に改めました。

とても分かりやすい言葉で解説がされているため、富士山の持つ顕著で普遍的な価値の理解を深めることが出来ることと思います。



すっきりした床地図(一階)



富士山牛玉宝印



富士見十三州輿地全図



● 現物展示はじめます

今までは、現物展示を企画展の時に限り行っていました。今回のリニューアル後は、数カ所常設で現物展示を行います。

富士山ゲートの隣には、実際に富士講が使用した「行衣」を展示します。富士登山は修行であり、仏の住む世界の山頂への旅でした。そのため、死への旅立ちと同じような白い行衣を身につけて登山したのです。

また、病魔を除ける効果があるとされる「富士山牛玉宝印」などのお札(ふだ)、富士山を望むことができた関東・中部地方の十三カ国を描いた「富士見十三州輿地全図」などの展示を行います。



● 富士山のあゆみ

二階の御中道回廊を進んでいくと、富士山の歴史が分かる「富士山のあゆみ」を展示しています。今回リニューアルされ、より分かりやすくなっています。雄大な自然と富士山を想う人びととの関わりを「富士山誕生」「繰り返し噴火」「噴火の収束」「信仰の広まり」「富士講の隆盛」あせない信仰の山の六つのテーマに沿って、富士山の歴史を紹介しています。パネルを追って読み進めていけば、富士山の歴史「博士」になることができます。



● 世界遺産富士山VR

浮世絵にも描かれてきた御坂峠から富士山頂まで、かつて参詣者が歩いた信仰の道を体験できます。ドローン映像をふんだんに取り入れ、臨場感あふれた内容となっています。皆さんもきつとヴァーチャル登山を体験できるでしょう。



● ふじガイド

「展示ガイドシステム」を一新しました。Web上で展示パネル以外の補足情報を提供し、興味や理解が深まります。英語圏以外の多言語にも対応しています。



リニューアルオープンの時期は改めてホームページ等でお知らせいたします。是非、リニューアルされた「南館」を体験して下さい。

せめて旅の雰囲気だけでも

コロナ禍で、気ままに外に出て、好きなように楽しむことが、なんとなく難しい御時世です。旅行などもそうですね。そこで冬の企画展では「富士山への旅」をテーマにして、江戸時代の後半を中心に、資料を集めました。当時は自分の足以外では駕籠(かご)・馬・舟ぐらいしか交通手段がありません。なので旅が長丁場になり、実にあちこちに寄り道をしませす。目的地までの距離によっては、出発から帰宅まで数ヶ月かかることもめずらしくありません。現代よりも時間の使い方がゴージャスです。そんな旅の楽しさを感じていただければと思います。

信仰？それとも観光？

日本史の教科書風に言うと、一八世紀の後半から一九世紀のはじめにかけて、江戸の町人を代表例とする庶民の文化が開花します。その庶民の娯楽として旅が流行します。ただ当時は、通行手形が必要になるので、旅の目的を申告しなければなりません。その目的はほとんどが寺社や霊山への参詣か湯治です。信仰心を満足させるための参詣は名目で、

実際は観光だったという見解があります。しかし旅日記などを見ると、信仰心を持ちつつ、観光も楽しんでいる人もいたことが分かります。

その一人が大坂の芙蓉亭蟻乗(ふようていぎじょう)を名乗る鍛冶屋さんです。彼は祖父の代から富士信仰にあつく、念願叶って富士登頂を果たします。その道中では、あちらの神社、こちらの名所と寄り道して、茶屋で休憩するときは、だいたい土地の名物を肴に酒を飲みます。当時日本最長だった東海道の矢作(やはぎ)橋(約三八〇以、愛知県岡崎市)では、酔いすぎて渡った事自体を忘れてしまいます。

『滑稽富士詣』の全編を展示

幕末の万延元年(一八六〇)から翌年にかけて出版された、假名垣魯文(かながきろぶん)の『滑稽富士詣(うけいふじもうで)』全一〇編は、信仰よりも観光を目的とする富士山への旅を、登場人物のドタバタ劇を通して書かれたフィクションです。富士山の部分は二編から四編までの部分ですが、今回はその前後の旅の様子も見ていただきたいと思います。一〇編すべてを展示しました。山梨県の吉田口

から登り、静岡県の須走へ下り、大山詣(おおやまもうで)など寄り道をして江戸に帰るといって、江戸富士講の典型的な富士山参詣コースが反映されています。図は山上から朝日を拝む場面ですが、「死んでも命があるように」などと、それぞれが勝手な事を祈っています。



さい)は、その理由を「天狗を怒らせないため」と記します。土佐出身の医者・池川春水(しゅんすい)は、「紙を敷いたところで、どうせ下に染みこむ」と、冷めた態度をとります。画家の中山高陽(こうよう)は、登山道沿いに紙は残っているのに、その上にあるはずの物体がないことに疑問を抱きます。そして、寒さと乾燥で固くなつてポロポロになり、強風で飛び散るからその姿を見ないとの結論に至ります。

彼らはいわゆる当時のインテリ層である「文人」です。彼らが富士山に登った理由はそれぞれですが、その体験や山上からの絶景は、彼らに仙人が住むような聖なる世界を感じさせるのに十分でした。信仰か？観光か？という区別以前に、富士山は人びとに崇高な気持ちを感じさせてきたのです。

文人たちと排泄物問題

富士山に人間が登る以上、避けて通れないのが排泄物の問題です。山中では地面に紙を敷いて、その上用を足しました。学者の原得齋(とく)

企画展の内容をまとめたリーフレットをセンターのホームページ上で公開しております。よろしければご覧ください。

(<https://www.fujisan-whc.jp/>)



第19回 富士さんへ謹賀新年～富士山あて年賀状～入賞・入選作品展

以下の日程で、入賞・入選作品200点の作品展を行います。富士山への様々な思いにあふれた年賀状をぜひ会場でお楽しみください。

4月 1日 (金) ～ 4月20日 (水)	道の駅なるさわ (鳴沢村)
4月22日 (金) ～ 5月22日 (日)	河口湖ショッピングセンターBELL (富士河口湖町)
5月23日 (月) ～ 6月12日 (日)	三ツ峠グリーンセンター (西桂町)
6月15日 (水) ～ 7月 6日 (水)	ふじさんミュージアム (富士吉田市)
7月 7日 (木) ～ 7月28日 (木)	紅富士の湯 (山中湖村)
8月 1日 (月) ～ 8月31日 (水)	山梨中央銀行本店 (甲府市)
9月 1日 (木) ～ 9月19日(月・祝)	四季の杜おしの公園 小池邦夫絵手紙美術館 (忍野村)
9月21日 (水) ～10月11日 (火)	道の駅すばしり (静岡県駿東郡小山町)
10月13日 (木) ～10月30日 (日)	身延町みすきふれあい館 (身延町)
11月 1日 (火) ～11月17日 (木)	韮崎市立大村記念図書館 (韮崎市)

※各会場の休業・休館日や開館・営業時間に関しては、各会場にお問い合わせください。

※他の会場でも開催予定です。詳細は次のURLをご覧ください。

https://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/topics/no19_kinga_top.html



富士山環境学習支援プログラムのお知らせ

富士山ボランティアセンターでは、多くの方が富士山とふれあい、知識を深め、富士山を愛する心や環境保全の意識を育むことを目的とした、富士山レンジャーによる富士山学習の支援事業を実施しております。交通費や謝礼は一切必要ありません。各種研修にぜひご活用ください。

実施日・時間	原則として平日の毎日（年始年末を除く）9時30分～16時30分の時間帯30分～90分
対象	地域住民、各種団体、企業等、児童、生徒、学生（教員向け研修もあります）
定員	最大25名まで（プログラムの内容により異なります。）
申込み	原則として希望日の1か月前までにお申込みください。

※詳細は下記よりご確認ください。

<https://www.yamanashi-kankou.jp/fujisan/manabo/manabo001/index.html>



富士山憲章（行動規範）

- 一 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 一 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 一 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 一 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 一 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

平成10年11月18日 山梨県・静岡県

富士山憲章は、富士山の自然環境等の保全の理念や環境保全のための行動規範を示すことにより、富士山の環境保全への協力を訴え、国民的な規模で保全運動の展開を図っていくことを目的としています。

■編集・発行 富士山ボランティアセンター
(富士山憲章山梨県推進会議)

山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1
(富士山世界遺産センター北館内)
TEL: 0555-20-9229 FAX: 0555-72-4114
E-MAIL: fujisan@eps4.comlink.ne.jp

本誌のバックナンバーは下記よりダウンロードできます。

<https://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/newsletter/index.html>

富士山環境保全関連イベントのメールマガジンを希望する方は、「富士の国やまなし観光ネット 富士の国やまなしメールマガジン」の会員登録画面より登録してください。

<https://www.yamanashi-kankou.jp/mailmagazine/index.html>